

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

no. 118

2023. summer

# KENBI LETTER

ケンビレター

高知県立美術館開館30周年記念

野町和嘉写真展 地平線の彼方から

2023(令和5)年7月8日[土]—9月24日[日] 会期中無休



夕日に映える砂丘の谷間を行く少年。カルザス アルジェリア 1972年

高知県立美術館  
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

## Exhibition Information - 01

高知県三原村出身の写真家・野町和嘉。過酷な状況下を生きる人々を捉えた写真や、各国の世界遺産を捉えた作品を数多く発表し、多くの写真ファンを魅了し続けています。この度の大規模個展に寄せて、野町さんよりコメントが届きました。展示作品の撮影秘話や、鑑賞ポイントとともに、展覧会の内容を一部ご紹介します。

取材及び文・天野圭悟(当館学芸課チーフ) ※画像はすべて=©Kazuyoshi Nomachi

私の郷里で開催される展覧会は、2008年の「聖地巡礼」展以来、15年ぶりとなります。その間に東京を中心に行ってきた3つの展覧会に出品したシリーズ「地平線の彼方から」、「世界遺産」、「シベリア収容所1992年」に新作を加えて再構成し、高知県立美術館で開催するのはとってもスリリングな試みです。本展は、写真家として活動を始めた頃に撮影したサハラ砂漠の作品から始まります。また、現代のウクライナ侵攻という理不尽な現実に触発され、30年前のソビエト崩壊直後に垣間見たロシアの暗部を捉えた作品も急遽発表することとしました。コロナ禍の直前まで続いた、世界遺産を巡る旅の集大成ともなるでしょう。乞うご期待です!



## 1 地平線の彼方から

本作品を撮影した1975年6月28日は、写真家人生の中で鮮烈に印象に残る1日でした。リビアのキャラバン隊に同行して撮影した本作品は、隊員のひとりが礼拝をしている場面です。約1000キロメートルの道のりは炎天下、ラクダの一部が行方不明や走行不能になるなど壮絶でした。

## EVENT

## 野町和嘉トーク「『地平線の彼方から』を語る」開催!

野町氏自身に展示作品の解説や撮影秘話を語ります。終了後、トーク参加者で写真集を持参の方を対象にサイン会を行います。(1人1冊まで。ミュージアムショップ以外で購入された本も対象です。)

- 日時 = 8月5日(土)14:00~16:00(開場13:30) ●会場 = 美術館ホール
- 定員 = 先着300名 参加無料 ※事前予約不要

## Exhibition Information - 02

## 没後40年

## 中島敬朝展

高知県展初期に指導的役割を果たした日本画家、中島敬朝の没後40年を記念した展覧会を開催中です。本展は、現在の四万十市の港町、下田に生まれ、一念発起して京都で画家を目指した敬朝の初期から晩年までの作品50余点を展示する回顧展。開催にあたっては、令和4年度にご遺族より作品17点や資料の寄贈を受けたことに加え、ご親族やお弟子さん、画家のアトリエのご近所さんなど様々な方のご協力を得て、画業全体をたどる内容が実現しました。



展示会場では日本画や洋画など画家の多彩な作品を紹介

展示会2日目には、中島敬朝の長男・丈博氏をお招きしてオープニングトークを実施。会場は満席の盛況ぶりで、父子ならではの温かいエピソードからは敬朝氏の人柄が伝わってきました。

文・中谷有里(当館主任学芸員)

開催中

2023年5月27日[土]~7月23日[日]

1階 第4展示室 9:00~17:00(入場は16:30まで) 会期中無休



《聖峰》紙本着色 1971年

# 野町和嘉 写真展 地平線の彼方から

Kazuyoshi Nomachi Photography Exhibition: Beyond the Horizon



シベリア収容所1992 ロシア 1992年

2



タッシリ・ナジェール アルジェリア1978年

3



野町和嘉 KAZUYOSHI NOMACHI

1946年高知県幡多郡三原村生まれ。県立高知工業高校機械科卒。17歳で初めてカメラを入手し、写真に興味を持つ。写真家の杵島隆に師事。1980年代後半から、過酷な風土を生き抜く人々の営みと信仰をテーマとして、アフリカ、中近東、南米など世界各地を訪ねて取材。主な写真集に『サハラ』(1978年)『チベット』(1994)『地平線の彼方から』(2015)など。2019~23年(公社)日本写真家協会会長。2009年紫綬褒章。2014年日本写真協会国際賞。

2023(令和5)年7月8日[土]~9月24日[日] 会期中無休 9:00~17:00(入場は16:30まで) 会場=高知県立美術館 第2・3展示室

観覧料 = 一般当日1,200円(960円)、大学生850円(680円)、高校生以下無料

\* ( )内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳持者は無料。

主催 = 高知県立美術館(公益財団法人高知県文化財団)、高知新聞社、RKC高知放送

協賛 = キヤノンマーケティングジャパン株式会社、馬路村農業協同組合、中島健蔵写真事務所、新ロイヤルホテル四万十、一般財団法人土佐織多の会

後援 = 公益社団法人日本写真家協会、高知県教育委員会、高知市教育委員会、三原村、三原村教育委員会、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送

協力 = OM SYSTEM GALLERY 企画協力 = 株式会社クレヴィス



《根が生えた服》撮影:宮井正樹

Exhibition Information  
- 03

予告 高知サマープロジェクト2023

## ひびのこづえのワードローブ展

NHK Eテレの番組『にほんごであそぼ』やコンテンポラリー・ダンス『星の王子さま』、NODA・MAPの舞台『フェイスクスピア』等、数々の衣装を手掛けるコスチューム・アーティスト、ひびのこづえ。この夏、当館第4展示室をワードローブに見立て、ひびのによる森羅万象をモチーフにした、ポップで、かわいい不思議な衣装が並びます。また、映像やデザイン画なども併せて展示し、実際に人が着用した様子や作品が生まれた背景も紹介します。会期中、関連イベントも盛り沢山!ジャンルを超えて活躍する「ひびのこづえの世界」をリアルに感じてください。

文・長山美緒(当館主任学芸員)

会期中、  
ダンスパフォーマンスや  
ワークショップなども行います。  
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

2023年7月29日[土]~9月24日[日]

1階 第4展示室

9:00~17:00(入場は16:30まで) 会期中無休

観覧料 = 一般当日370円(290円)、大学生260円(200円)、高校生以下無料

Exhibition Information  
- 04

展覧会報告

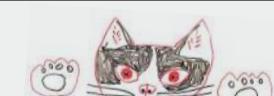
## ミロコマチコ ライブペインティング&ワークショップ開催

2021年の展覧会「ミロコマチコ いきものたちはわたしのかがみ」の際、コロナ禍で泣く泣くキャンセルせざるを得なかったワークショップ。「いつかりベンジを…」との約束通り、6月3日・4日に、セレクトショップ「ジーンズファクトリー」とのコラボレーション企画として実施しました。ワークショップ「あつまれたくさんのかねこたち」では、ネコが描かれたミロコさん特製のラグに、参加者それぞれが装飾を施し、子どもたちの笑顔がいっぱいの機会となりました。また音楽家の園部信教氏のサウンドと共に行われたライブペインティングでは、1.8×4.5mもの大作が仕上がり、ジーンズファクトリーの土佐道路店に常設展示されることになりました。アジア食堂「歩屋」に続き、高知でミロコマチコ作品に出合える場所が増えました。ぜひご覧ください。

文・長山美緒(当館主任学芸員)



どんなネコか発表!ワークショップのお土産は  
歩屋さんのネコ型クッキーでした



ライブペインティング終了直後の作品

シベリア収容所1992

# MUSEUM HALL INFO

## 美術館ホール 報告

冬の定期映画上映会 ●2023年1月18日(水)～22日(日) 美術館ホール

### 「濱口竜介監督特集」濱口氏トーク／1月22日(日)

アカデミー賞国際長編映画賞をはじめ、世界の映画祭で受賞している濱口監督。上映会に併せて開催したトークショーでは、映画監督になるまでをお話しいただきました。その後編を紹介します。

聞き手・浜口眞吾(当館企画事業課課長補佐)



濱口監督の祖父は画家の濱口喬夫。トークの前には展示中の作品を鑑賞し、感慨深いご様子でした。

#### Q. 大学卒業後の助監督経験を経て、大学院に進学された経緯を教えてください。

国立初の映像教育機関として東京藝術大学大学院映像研究科が創設される時、北野武さんや黒沢清さんがその教員になると話題になりました。自分には映画の助監督の才能がないと打ちひしがれていた頃だったので、監督になるにはこれが最後のクモの糸かもしれない、これを登っていくしかないと思いました。二度目の受験で合格し、もう監督としてやっていくしかないという気持ちでした。

#### Q. 在学中はどのように学んでいましたか。

専攻していた監督コースでは、2年の在籍期間中、24本の映画制作が課題だったので、超ハイペースにひたすら作っていましたね。まるで小さな撮影所のように、撮影や編集を学んでいる同級生と何度も映画を作ることで、あうんの呼吸が生まれていき、修了制作では自分のやりたいことをぶつけられた作品が完成しました。

#### Q. 当時、作品が印象的だった監督はいますか？

ダグラス・サーク<sup>\*</sup>の作品はたくさん観たし、とても影響を受けました。以前「あなたは、題材はくだらないけれども、演出が本当に素晴らしい監督として有名ですが、それをどう思いますか」と質問されたことがあります。何か引っかかるような有り難いような言葉でしたが、これは自分への言葉ではあるけれども、ダグラス・サークを形容していると思いました。彼の作品はお涙頂戴のストーリーと言われますが、あの様に鑑賞者の感情を揺さぶる作品はなかなかない。自分もそんな作品を作りたいと思わせてくれる監督です。

\*ダグラス・サーク(1897～1987年)はドイツ出身の映画監督。メロドラマの巨匠と称され、ゴダールやタランティーノら後年多くの映画監督に影響を与えた。

#### Q. 『永遠に君を愛す』(09年)は卒業の1年後の作品ですが、どのように制作したのですか。



『永遠に君を愛す』©2009 fictive

卒業後そのまま商業映画を撮れるほど甘くありませんでした。何もせずに1年が過ぎ、それなら自分で撮ろうと思いました。友人が「ハマが本気で映画を撮るんだったらお金を出すよ」と制作費を出してくれ、藝大の仲間と一緒に作りました。小規模な映画ですが、この時自分で撮ろうと思って制作したことがすごく良かった。自分にとって、その後の監督人生につながる大事な一步だったと思います。

## 高知ライブエール・プロジェクト

### カンパニーデラシネラ『はだかの王様』

●2023年5月19日(金) 田野町ふれあいセンター ●2023年5月21日(日) 佐川町立 桜座

2021年に当館で初演を迎えた本作品が、その後たくさんの学校での公演を経てパワーアップし、高知に帰ってきました。カンパニーデラシネラの舞台はパントマイムを基本に、ダンスの要素も多く含まれています。メンバー5人の動きを綿密に決め、その動きがピッタリと合った時に、観客に笑いや驚きが生まれるのが魅力です。本作品でも、王様のパフォーマンスからシニカルな笑いが会場を包み、そしてその笑いをメンバーが楽しんでいる様子が伝わってきました。普段演劇を見る機会の少ない子どもたちが、本公演をどう体験してくれるのかも興味深いところでしたが、みな本当に喜んで楽しんで、そして王様の世界に引き込まれているのを感じました。21年の初演と今回の公演とを経験し、この作品がカンパニーと観客によって磨かれて完成したことに大きな喜びを覚えた公演となりました。

文・浜口眞吾(当館企画事業課課長補佐)



セリフは無くとも、しぐさや表情で笑いが伝わります



王様のパレードで公演のフィナーレを迎えました

#### 美術館ではどんな人が働いているの？職員やそのお仕事を不定期で紹介します。

### 島田さんにインタビュー

#### 第2回 機械保守担当さん



機械保守員の島田さん。

#### Q. どんなお仕事をしていますか？

館内の空調機や熱源機器の点検・運転をして、展示品の状態を保てるよう温湿度管理をしています。

#### Q. 仕事で印象的だった出来事は？

美術館の中庭に作品を展示した際、池の水面に作品や空が美しく映るよう、池を一からキレイにし、状態を維持するために腐心しました。作品の展示に携われて、美術館ならではの喜びを感じるとともに、貴重な経験でした。

エントランス傍の水辺には滝があり、天気によって雰囲気が異なります。ベンチでの休憩中やレストランで食事をしながら見るのも気持ちいいです。



美術館の  
ここが  
オススメ！